

公共施設マネジメント実施計画見直し検討会議 議事録

会議名	第4回 公共施設マネジメント実施計画見直し検討会議	
日時	令和3年9月27日(木) 午前10時から正午まで	
開催場所	蒲郡市役所305会議室、オンライン会議システム Zoom	
出席者	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋大学教授 高野雅夫 ・名古屋大学教授 恒川和久 ・愛知工業大学教授 安井秀夫 ・愛知工業大学講師 益尾孝祐 (Zoom) ・(髷) まちの縁側育くみ隊 代表理事 名畑恵 (Zoom) ・(株) 三菱総合研究所 主席研究員 川口荘介 (Zoom) ・企画部長 大森康弘 ・総務部長 平野敦義 ・建設部長 鈴木伸尚 ・教育部長 嶋田丈裕
	事務局	公共施設マネジメント課 高橋課長 上田課長補佐 尾崎 尾崎
議題	<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画(案)について ・その他 	
<p>1 開会 (恒川会長) 開会</p> <p>2 実施計画(案)について</p> <p>(事務局) 実施計画(案)の第1章～第3章の修正点について説明</p> <p>(恒川委員) 蒲郡市が公共施設マネジメントで何を大事にしているのかが、25ページの図からでは伝わりづらいように感じる。実施計画全体の前半ページにあっても良いと思う。おそらく概要版として1枚にまとめる際に、25ページの図が大事になる。この図を前提に、各章で詳細について説明しているという構成でどうか。</p> <p>(益尾委員) 公共施設マネジメントで、ハード面について考え方を示してきたが、ソフト面として管理費のこと、運営における市民参画のことや指定管理のことも含め、どこまで書き込んでいくのかが気になる。</p> <p>(事務局) 指定管理、業務委託といった内容は、公共施設マネジメント基本方針の5つのキーワードのうち「効率化」という所で触れて</p>		

	いる。
	運営に関する市民参画も、23ページに企画段階及び運営における市民参画を記載している。
(恒川委員)	27ページで目標の指標に市民意識調査における公共施設に関する満足度の指標を用いることが、よく分からない。満足度の今の状況はどうか。
(事務局)	令和2年度に行った調査の結果を、13ページに記載している。赤色の丸で囲っている項目が、主に公共施設の整備に近い項目である。施設の整備と明記された項目は満足度が低く関連するそれ以外の項目は全体の平均に近い満足度となっている。
(恒川委員)	この満足度を、計画最終年の令和28年度に令和2年度と比較をすることになるのか。すごく先の話のように感じる。
(事務局)	5年に1回見直しをする。そのタイミングで見比べてもよい。
(恒川委員)	他の自治体で満足度を目標に掲げているところはあるか。
(川口委員)	今回のように平均点と比較していく例は、珍しいと思う。また、使っている例もあるが、シンプルに定点比較で用いることが多い。
(恒川委員)	質問項目でも、施設に関するハード面、ソフト面と分けて実施できていないので、分かりづらい部分はある。
(川口委員)	満足度を目標設定している自治体は多くはないが、これを入れたいということは評価する。
(高野委員)	28ページの「建替え時期の調整による費用の平準化」の項目で示された図表番号が違っていると思う。
(事務局)	色々修正を行っている段階で、ズレてしまった。
(高野委員)	建替周期が80年の計画と60年の計画で80年の方が安いのは、80年間の方が長寿命化しているため安くなるのか。
(事務局)	単純に全て長寿命化すると期間内の費用の縮減に繋がるが、費用を抑えると同時に、財政負担を考え1年毎の負担を平準化していく必要がある。また、全て長寿命化するのではなく、必要なくなったものから処分した方が縮減に寄与するという事もある。
(高野委員)	長寿命化の話がどういった位置づけなのかが分からない。長寿命化は必要なのか、それとも問題があるから不要なのか。
(事務局)	基本的には長寿命化を検討していくが、施設によっては取り壊し等も考慮していくという考え方。
(恒川委員)	29ページの図が分かりにくい。「捻出が必要な額」というより

	<p>は、「このままでは足りない額」っていうことだと思うので、表現の仕方でしょうか。「計画期間内（25年間）に費用の捻出が必要な額」も、なぜ50年を25年にしているのかということが分かりづらい。最初から25年間で作るのがよいと感じる。</p> <p>「〇〇をすると、□□円ぐらい削減できる」といった書き方が分かりやすい。</p>
(事務局)	<p>なぜ50年間かという点について、公共施設マネジメントを考える上で、ある程度長期的視点に立って考える必要があるという思いから、50年間で試算している。過去の実施計画でも50年間で30年間に割り戻して考えている。今回もそれに沿って50年間とした。</p> <p>「費用の捻出が必要な額」が分かりづらいのは感じるので、足りない額等で言い換える案を考えたい。</p>
(川口委員)	<p>第3章であげた目標を達成するための手法が、第4章以降どう反映されるのかが気になる。現状あまり具体的なことが書かれていない。</p>
(事務局)	<p>第4章では各施設のことに触れているが「〇〇を□□%削減」といったことが書くことができると、それを積み上げたものが目標となり分かりやすい。ただし、そこまで書くのは難しいと感じる。今後も、現状（案）のように施設毎には触れずにいこうと考えている。</p>
(川口委員)	<p>他の自治体とくらべても、将来像を書かれてなさすぎる感じがする。いつ、どこをまでは示さなくても、「縮減します」といった方向性だけでも書くべきである。</p>
(恒川委員)	<p>確かに、第4章以降に繋がりが無い。</p> <p>例えば、施設更新時に床面積の3割削減を示した。しかし、施設によっては縮減できるもの、できないものがある。また、サービスによっては、施設内で受けることができるもの、在宅で受けることが可能なもの、といった具体的な内容も実施計画に記載すべき。</p>
(川口委員)	<p>いつまでに、といったことを書くのは難しいので、方向性ぐらいは示しておいてもいいはず。</p>
(恒川委員)	<p>2ページの「計画の位置づけ」でグラフ化された各計画に、策定された年度を入れるとよい。</p> <p>25ページの図で、蒲郡市の公共施設マネジメントがどういう方向性に進むのかを示すキャッチフレーズがあるとよい。単純</p>

	に削減することだけが施策の方向性ではない、というメリハリが重要。
(嶋田委員)	25ページの図は市民にも示していくものであり重要なものになるが、イメージが湧きづらいと感じる。「その時代に必要とされる役割を担う公共施設」等を大きく表示し、周りの視点やキーワードとともに視覚的に認識しやすいように。
(高野委員)	「サードプレイス」という単語の説明が21ページにあるが、コミュニティの拠点としての視点も必要。加筆してほしい。
(恒川委員)	「サードプレイス」という言葉も、当初と現在では意味が変化してきている。
(恒川委員)	現状のグループヒアリング(※)の様子を教えてください。 ※社会教育施設(図書館・市民会館・生命の海科学館・博物館)の今後を検討するために実施したもの。
(名畑委員)	グループヒアリングについて概要説明(※)。 ※グループヒアリングの実施概要 日 程：8月28日(土)・29日(日) 参加者：99人(4～5グループに分かれて4回ずつ実施) 一般公募・施設利用者・若者議会・学生 内容は別添資料のとおり。
(事務局)	実施計画(案)の第4章～第6章の修正点について説明
(安井委員)	63ページ図表4-12で「検討」とされているものがあるが方針が決まっているものと色分けした方がよい。 65ページの図は載せない方がよいのではないかと。図が一人歩きしてしまうので、四角や丸のダイアグラムにした方がよい。
(恒川委員)	65ページの地区個別計画の基本計画は、設計事務所が図面を作成したものでよいか。また、実施設計の業者はこれから決定するということによいか。
(事務局)	実施計画の図面は、市民へ公表されている。
(恒川委員)	基本計画の業者が実施設計を行うのか。
(事務局)	また改めて業者を決定する。
(恒川委員)	形が大きく変わるかもしれないのか。
(事務局)	基本計画であるため、中の細かい内容は変わる可能性があるが、施設配置等は基本的にはそのままを想定している。
(安井委員)	基本計画は構想なのか、設計なのか。

(平野委員)	構想であるが、構想の中に設計にあたる部分も盛り込んでいるので、基本計画の次は実施設計となることを想定している。
(安井委員)	基本構想をいかしながら、設計のプロポーザルを行った方がいいのではないか。公共建築は今後できるだけプロポーザルを行い、得意な建築事務所に頼むほうがよい。
(恒川委員)	リーディングプロジェクトであり、市民がすばらしい施設だと実感できるものができるとうい。「設計者を選ぶことは大切なことである」と出来れば記載しておいてほしい。魅力的なものができることで、後に続く地域もできる。
(安井委員)	大事なことだと感じるので、26ページに記載してほしいぐらいだ。よりよいアイデアを公共建築にも入れてほしい。
(嶋田委員)	教育委員会では、基本設計に近いものができるあがっているもので、通常通り入札で金額が低いところに依頼しようと考えていた。しかし、今の意見からプロポーザルももう一度検討してみたいと思う。
(恒川委員)	これから設計の入札は避けるべきだと思う。住民と作った基本計画であっても、それ以上によいものができる余地が残されていると思う。金額ではなく、提案力・デザイン力で考えていくべきだと感じる。
(安井委員)	以前、小牧市の図書館を見学したが、設計士の方も住民との対話を重視しながらローコストに抑えるように努めてくれたと聞いた。建築家に頼むと高くつくといったイメージがあるかもしれないが、そういう時代ではない。企画力やどれだけ市民と寄り添って提案できるかが評価されるようになってきている。決められた基本構想の中で、依頼するという方法もある。ワークショップではこのように考えたから、派生した考え方を出すよう依頼する。時間軸と金額を決め、プロポーザルをするやり方でも建築家は対応できると思う。
(恒川委員)	どこまで提案の余地があるのか、設計者がよく分かっているはずなので、基本計画を作った設計事務所に要項を作ってもらう方法もある。
(高野委員)	市民会館については、かなり踏み込んだ書き方がされている。令和13年度までに中央公民館の機能を取り入れるなど、具体的に書かれており実行できるのか。
(事務局)	社会教育機能を果たす施設として中央公民館を作っていく構想

であるが、設置場所の例として市民会館とした。具体的に決定してはいるが、市民会館が候補の1つである。

(高野委員) 市民会館は、ホール棟とそれ以外の部分で分けて考えていくのか。

(嶋田委員) 今の実施計画では、ホール棟は耐震基準を満たしていないので、耐震補強を行うとしており、会議室棟は、様々な施設を複合化し再編を図ることを考える。

令和元年度に実施した調査では、ホール棟を耐震・長寿命化して現状の施設規模を維持して改修する場合の試算をしたところ、30～40億円必要である。施設規模を少しコンパクトにし新しく立て直す場合、50数億円でできてしまうので耐震・改修を行うべきなのかを含めて方向性を検討している段階。

(高野委員) 会議室棟は耐震基準を満たしているのか。

(嶋田委員) 問題ない。

(恒川委員) 昨年1年間、有識者の中で社会教育施設のあり方を検討し、4つパターンを提示した。有識者の中では、来年度には4つの中から1つに絞るところまでは考えられるはずという話がでたが、一方でグループヒアリングを通してビジョンを作っている段階である。1つに絞り込むこととビジョン作成、どちらを先に行うのか。

(嶋田委員) 9月末に担当課を集めてビジョン作成の勉強会を実施し、10月にビジョン案作成、11月にビジョン完成、12月に議会報告というスケジュールを想定している。ビジョンではそれぞれの施設の機能について、どういった使い方をしたかをもとめる予定。

(恒川委員) つまり実施計画のリーディングプロジェクトに、ビジョンに基づいて複合化する施設案を掲載することができるのか。

(事務局) 来年度リーディングプロジェクトの基本構想を策定というスケジュールで動くつもりである。ただ現状では、リーディングプロジェクトに書くべきこと、基本構想に書くべきことの整理ができていない。

(安井委員) 基本構想をどう作っていくかの考え方が非常に重要。今まで市役所がやってきたやりかたを根本的に変えていかないといけない。複合化というよりは、流動化という言葉を使う。複合化は1+1は2だが、流動化は1でもいいが2つの機能があるという考え方で、デジタル化により可能となってきている。

	基本構想を作る際に専門家をいれるかどうか。東港でも同様の議論がされている。
(恒川委員)	結果をどこまで書くかは別として、どういう仕組みでプロジェクトを進めるかは書いたほうがよい。 市民プールは、現状取り壊されたが、市長の公約により再建設検討とされている。地区個別計画では、学校再編の計画がでていたが学校のプールはどうしていく計画なのか。 ユトリーナ蒲郡との関連性はどうか。
(嶋田委員)	現状、学校のプールの方向性が決定していない。今年度、蒲郡中学校、塩津小学校で試験的に民営プールを利用して授業を実施している。中学校は先行して実施してきており、保護者、子ども、先生のアナケートでも良い反応だった。全市的に広げるには、更に実現可能性を探る調査が必要と考える。競艇場のボートパーク構想には、プール機能が入ることも検討されるかもしれない。
(鈴木委員)	前回の会議で、会議室の機能がいろいろな施設にあり無駄が多いといったご意見があった。会議室やプールといった、機能ごとの集約もあるのではないか。
(恒川委員)	非常に重要な視点。ただ、会議室をいくつ作るという想定は難しいと思うので、全体を見てという書き方がよいのではないか。
(事務局)	基本方針の「適正化」の欄に具体的な施設名は書かれていないが、行政サービスの機能分解が書かれている。ユトリーナ蒲郡はクリーンセンターの余熱を利用して運営しているが、今後焼却施設の広域化の話が進められると、市内からクリーンセンターが無くなることが想定されている。
(大森委員)	焼却施設の広域化は、東三河内で話があがっている。立地的にみても蒲郡に残る可能性は低い。
(恒川委員)	公営住宅は古くなったものから減らしているが、市民ニーズから問題はないのか。
(鈴木委員)	空き部屋も目立ち、ニーズとしては問題ない。
(高野委員)	人口減少抑制のため、行政が移住・定住者向けの住宅を整備することもある。東栄町では、空き家を市が買い上げリノベーションし、貸し出している。公営住宅は、マネジメント目標の床面積3割以上の削減が可能だと思うので、別の用途での活用も考えてほしい。

- (安井委員) アフターコロナの中で、どこでも仕事が可能であるため、住環境のいい蒲郡に住みたいという人が増えるかもしれない。新たに住み始めたその一人が発信することで、移住者を10人程呼び込んでくれるかもしれない。
- (鈴木委員) 空き家バンク制度を作っている。最近登録する数が増えている。借りる人はやはり安いからという理由が一番。
- (益尾委員) 福祉施設では地域包括ケアの観点から、在宅ケアなどどこまで行うかという面も出てくる。社会福祉施設の空き家活用なども増えている。今ある施設を撤去するだけでなく、今後福祉と空き家などどう関係していくのかを含め、この計画に落とし込んでいくのかを検討してほしい。
- (名畑委員) 都市戦略と機能集約はペアになってくる話。都市戦略として「このエリアの魅力を高めたい」と意思を示すことが非常に大切である。グループヒアリングから、図書館の拡張イメージなど市民はしっかり持っていると感じた。
- (恒川委員) この実施計画を10年進めるとどのくらい効果があるのかが見えない。施設ごとの方針が出ていないので、単純な積み上げは難しいと思うが、何らかの見込みが示せると良い。
- (平野委員) 地区個別計画の基本計画を議会報告した際も、これをする事でどのくらい費用削減につながるのかを聞かれた。床面積については、西浦中学校が小学校と集合するので減少することが明確だが、必要経費は今後50年を見据えるという話になる。

3 その他

- (事務局) 先進施設の視察について行程等を確認